

平成 20 年度

第 1 回 芦屋の里浜づくり実行委員会

『芦屋の里浜づくりワークショップ(ワークショップ資料)』

平成 21 年 3 月 8 日

目 次

ワークショップの立ち上げ	1
ワークショップの流れ	1
ワークショップの内容	2

芦屋の里浜づくりの取り組み

～ 芦屋港海岸（遠賀郡芦屋町）～

◆ワークショップの立ち上げ

芦屋の里浜づくりに参加してみませんか
～ワークショップの参加者募集～

福岡県では、芦屋の里浜づくり（浜崎海岸～芦屋海岸）について、住民のみなさんと話し合いを
考えています。

また、今後の海岸利用について、みなさんから
意見やアイデアを出してもらい、すばらしい海岸に
していきたいと考えています。

そこで、ワークショップ（検討会）を開催します。
わいわい、ガヤガヤと、みんなで楽しく考え、話し
合ってみませんか。

〇とき 12月16日、19年1月20日、2月17日の全3
回（いずれも土曜日、時間は午前9時30分～正午）

〇ところ 芦屋漁村研修センター（西浜町）

※第1回目は、「オリエンテーション（顔合
せ）」と「海岸の問題点を探そう」です。

●申し込み 11月30日（木）までに、福岡県北九州
土木事務所総務企画課（☎691局2761）へ



里浜とは？

一昔前まで当たり前だった「浜辺と人々のつな
がり」を、「現在の暮らしにかなう形で蘇らせた浜」
のことです。

ワークショップとは？

年齢や経験、立場の違う人たちが集まって、お
互いの意見を収集しながら、共同作業と話し合い
を通じ意見をまとめていく、参加・体験型グルー
プ活動のことです。

地域の皆さんから、海岸の利用形態や理想の里浜像についての意見を伺いながら飛砂対策を検討していくために、ワークショップを立ち上げる
こととし、ホームページや広報誌等で参加を呼びかけました。

ワークショップの目的

- ・ 地域住民が目指す里浜像について考えること
- ・ 里浜づくりと整合のとれた飛砂対策を考えること

ワークショップの構成

観光協会、砂像連盟、漁協、地域住民、地区役員、
小・中学校PTA、ライフセービングクラブ、自然を守る会
町役場、国土交通省、学識経験者 に参加いただいております

芦屋町広報「あしや」18.11.15

◆ワークショップの流れ

第1回

平成18年12月16日
交流・情報収集
（現状把握）

第2回

平成19年1月20日
情報共有
（事前学習）

第3回

平成19年2月17日
班毎の
合意形成と発表

第4回

平成19年9月8日
イメージから
具体案へ

第5回

平成19年11月17日
全体案の醸成

第6回

平成20年3月15日
里浜の実現
に向けて

◆ワークショップの内容

第1回
平成18年12月16日
交流・情報収集
(現状把握)

参加者の誕生日で季節毎に4班に分かれてもらい、参加者同士の自己紹介にはじまり海岸の現地調査を行ってもらい、気付いた点や思い出を記録してもらいました。



会場の状況



現地調査の様子

第2回
平成19年1月20日
情報共有(事前学習)

第1回で実施した現地調査結果を基に、目指すべき里浜像と飛砂対策について話し合いました。



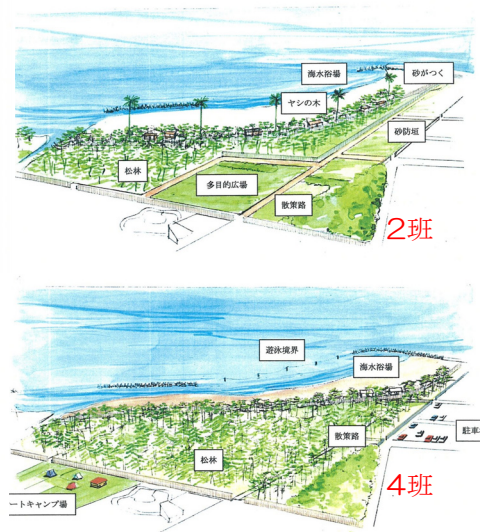
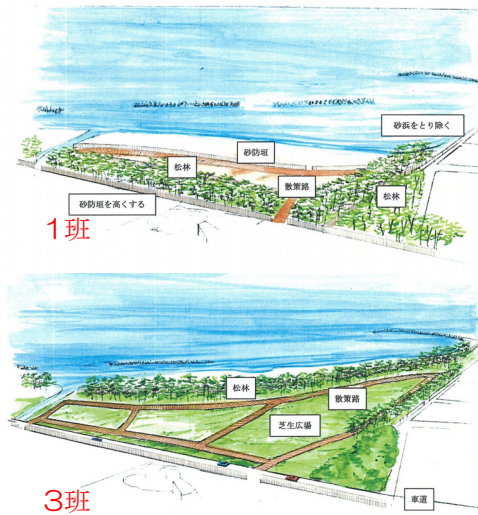
第3回
平成19年2月17日
班毎の合意形成と発表

「個人の意見から班の意見へ」という意識のもと、里浜像と飛砂対策案を具体化させ、班の考えを一つにまとめました。



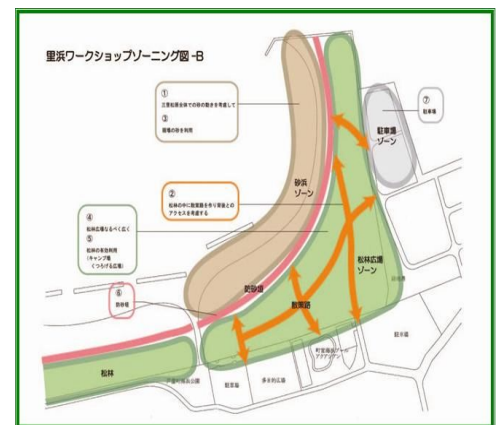
第4回
平成19年9月8日
イメージから具体案へ

各班の検討内容からイメージ図を描き、共通点や相違点を見出すことにより、各班の主張を明確にしてもらいました。この時点では、堆積した砂を除去し以前の砂浜に戻したいという意見と、広大な砂浜を有効利用するという意見がありました。各班に共通する意見としては、飛砂防止のためには、松林や植生の活用が必要ではないかということでした。



第5回
平成19年11月17日
全体案の醸成

各班共通の意見である松林や植生による対策の可能性について、九州大学農学部久保田先生にご意見を伺いました。海岸線の植林に関する具体的な事例や堆砂垣と植生による砂浜の安定化、また、古い畳を用いた植生の基盤づくりについて講義していただきました。また、九州共立大学の小島先生には、海岸工学の見地から、漂砂のメカニズムについて説明いただき、海岸線の形成に関する知識の共有が図られました。これにより、巨額の費用を投じて堆積した砂を除去しても、その状態を維持していくことは難しいという共通認識が生まれ、砂浜の有効利用について全体案の醸成が図られました。



実験

平成19年12月22日
対策工法の試験施工

第5回で専門家のご意見をいただきましたが、それらの工法について、試験施工を行いました。ワークショップ参加者の方にもお手伝いいただきました。



木杭を1m間隔に打設し、高さ1m程度の竹柵を延長約20mにわたり設置しました。



設置完了



(設置後1ヶ月)
柵の前後に砂の堆積がみられます。堆積量を測定し、最適な構造を検討します

堆砂垣設置



古畳を敷き並べることにより、直接的な飛砂を防止するとともに、植生の基盤材として有効であるか判断するため20畳分設置しました



(設置後1ヶ月)
畳部分の砂は安定しているようです。時期をみて、浜辺の植物の移植等を検討します

畳方格設置

第6回

平成20年3月15日
里浜の実現に向けて

6回のワークショップを通じて、全体計画案がまとまりました。計画の実現はすなわち里浜の実現です。今後、里浜づくりの過程で、地域住民のみなさんにいかにして関わっていただけるかが重要なことであると考えられます。地域の財産を整備していくなかで、地域住民のみなさんとの協働のあり方について考えていく必要があります。

